

令和8年度 指定管理者制度モニタリング評価表（令和7年度末時点）

1 施設概要

(1) 基本的事項

施設名	尼崎市立弥生ヶ丘斎場／尼崎市墓園		施設所管課	保健局 生活衛生課	
施設住所	尼崎市弥生ヶ丘町1-1		竣工	H15.11（築満22年）	
設置目的	火葬に関する業務及び本市における墓地の公園化を図るため				
主な事業内容	各施設維持管理業務、火葬運転業務、斎場応接、墓園使用許可等・相談業務及び事務業務				
指定管理者名	大林ファシリティーズ・五輪グループ共同企業体		指定期間	自 R6.4.1	至 R11.3.31

(2) 施設の政策的な特性に係る事項

施設分類	B(指定管理者の役割が、施設維持管理等に係るものが主である施設)				
指定管理者に主として期待される事項	☐ 専門的なノウハウを生かした市の施策目的に資する事業実施 ☒ 効率的な施設維持管理運営 ☐ 団体等の担い手としての成長 ☐ その他（ ）				

3 市と指定管理者が年度当初に共有した目標及び達成状況等の評価

施設目標の達成に向けた取組（指定事業の効果的な実施、自主的な取組の実施）

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）

斎場は故人とのお別れの場にふさわしい管理運営を行うとともに、冬期の火葬需要に対応するため火葬受入件数の増加に取組む。墓園は快適に参拝できるよう維持管理し、また、使用者資格の適正化に向けた事務を行う。

実施結果

施設（斎場・墓園）の性質上、指標の設定は馴染まないため、各年度における指標の設定は行っていないが、各施設とも適切な維持管理運営に努めた。あわせて、斎場においては、安定かつ効率的な運営体制の確保や、火葬需要への対応として友引日の一部開場を行った。墓園においては、使用者資格の適正化に向けた事務を行った。

(参考)有効性に関する指標の設定及びその状況

指標①： 弥生ヶ丘斎場における火葬件数（大人・小人・死産児・胞衣等）

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実績	5,299	5,577	5,515	5,603	5,727	5,909	5,988	6,034	6,309	6,326	-
達成度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
評価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

指標②： 尼崎市墓園の区画数（弥生ヶ丘墓園分、西難波墓園は1,410）

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実績	5,063	5,063	5,142	5,142	5,205	5,250	5,250	5,250	5,260	5,265	-
達成度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
評価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

◎目標を大きく上回った/上限値に近い実績で推移している、○目標を（概ね）達成した、△目標未達（事情あり）、×目標未達（事情なし）

①決められた指定管理料内で、市民サービスが維持・向上されているか

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）

斎場の効率的な運営体制の確保とともに、来場者への接遇の向上に努める。

墓園管理においては利用者の事情を丁寧に聞き取り、条例に基づく使用者資格の適正化に向けた取組を行う。

実施結果及び評価

職員ミーティングを毎日実施し、来場者への接遇面を含めた現状と課題、留意事項等について職員間で共有しながら火葬業務に取り組んだ。また、墓園管理では、市と指定管理者双方が対応経過の情報を共有し取り組んだ。

市民サービスが、◎大幅に向上した、○維持・向上した、△低下した（特別な事情あり）、×低下した（事情なし）

②効率性と環境に配慮した施設管理とを両立できているか

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）

設備を良好な状態に維持し、環境対策を継続して行うとともに、光熱費の削減に取り組む。

墓参者が快適な環境で参拝ができるよう、墓園内の美化事業を適切に実施する。

実施結果及び評価

設備の状況を確認しながら運用し、重大な故障を発生させず、排ガス等の環境対策を継続して行った。

専属の職員による墓園内の美化事業を適切に実施するとともに、そのノウハウの継承に努めた。

◎高水準で両立している、○両立している、△両立しているとまではいえない、×環境への配慮が不足している

(参考)経費の状況（単位：円）

収入				支出			
項目	予算額	決算額	差引	項目	予算額	決算額	差引
指定管理料	254,435,976	243,899,658	-10,536,318	人件費	101,525,500	101,525,500	0
				0 事業費	96,145,526	77,420,163	18,725,363
				0 施設維持管理運営費	55,077,550	63,266,595	-8,189,045
				0 その他	1,687,400	1,687,400	0
収入計	254,435,976	243,899,658	-10,536,318	支出計	254,435,976	243,899,658	10,536,318

有効性

効率性

2 指定期間全体を通じての目標・実績

(1) 指定管理者の選定及び指定に当たって重視された事項（選定委員会での主な意見又は市の意思決定理由）

重視された事項	本市の火葬需要に対応した臨機応変な斎場運営、墓地使用資格の適正化に向けた取組				
指定管理者自身が設定した目標	自社のノウハウを活用し、人生最後の別れの場としてふさわしいサービスの提供と、すべての利用者に満足いただける施設運営の実現				

(2) 市と指定管理者の協議によって設定する目標

施設のありたい姿		利用者の心情に寄り添い、人生の終焉の場にふさわしい施設					
目標指標	指標	施設（斎場・墓園）の性質上、指標の設定は馴染まないため未設定					
目標指標	指定期間	R6	R7	R8	R9	R10	達成状況の評価
	目標値						
	実績値						

適正性	法令遵守	
	施設の管理運営や設備点検、訓練等を適正に行っているか	適正
	貸与備品等について台帳を整備し、適切に管理しているか	適正
	公文書管理条例の趣旨に則り、文書を管理しているか。協議録等、必要な文書を作成しているか	適正
	個人情報の保護に関する法律等や情報公開に係るルールを遵守しているか	適正
	公共調達基本条例、暴力団排除条例、その他の法令は遵守されているか	適正
	施設の経営状況	
	収支及びその結果報告や変更時の報告・連絡・相談が適切・適正にされているか	適正
	指定管理者自身の経営状況は健全か	適正
	危機管理―事故防止の安全対策や防犯・防災対策が適切にとられているか	
パートナーシップ	災害時の対応について、市との協議・共有が図られているか	適正
	災害時や緊急時のマニュアルを作成し、定期的に訓練等を行っているか	適正
	災害時や緊急時の対応責任者、責任体制は整備されているか	適正
	履行状況―提案時及び年度当初の計画等のとりに業務を行ったか	
	年度事業計画書における計画どおりに業務が遂行されたか	適正
	選定時の提案内容が実施されているか	適正
	業務マニュアルを定めるなど、安定的に履行できるよう取り組んでいるか	適正
	関係性の構築	
	適時の報告・連絡・相談を継続して実施し、施設の共同管理者としての関係強化を図った。	
	協働の状況（グループAは協働の相乗効果の視点、グループBはパートナーシップを踏まえた施設管理業務の状況）	
定期的な協議の場を設け、双方の意見や方向性を共有している。 斎場業務については、接遇技術の維持向上に努め、経費面を含めた効率的な運営体制への検討を行うとともに、増加傾向にある火葬需要への対応として、友引日の一部開場に加えて、1日あたりの火葬受入数の増加に取組んだ。墓園業務についても同様に、適正な管理運営に取り組んでいる。		
指定管理者の考える成果と課題及びより良い施設維持管理に向けた市への提案事項（総括）		
斎場業務においては、引き続き人生最後の別れの場としてふさわしいサービスの提供と、すべての利用者に満足いただける施設運営の実現を目標に掲げ、自社のノウハウを活用し、品質を高めることができた。また同じく自社のノウハウを活用し、効率的な指定管理料の運用を実施することができた。17時の増枠についても、関係各所と事前調整等を行いスムーズに対応することができた。 墓園業務においては、利用者の受付や相談に対し、親身になって対応することができた。今後とも年間使用料の収納率向上及び当初掲げた目標を実現維持することを重視し、日常運営を実施する。		
市の考える成果と課題及びより良い施設維持管理に向けた指定管理者への提案事項（総括）		
斎場業務においては、昨年度に引き続き利用者の心情に寄り添った接遇の維持向上や、経費面を含めた効率的な運営体制を継続し、また、今後の火葬需要への検討に取組まれたい。 墓園業務においては、墓園利用に関する各種届出の受付や相談について丁寧な対応に努めるとともに、効率的な事務処理を検討し、年間使用料の収納率向上に取り組まれたい。		
双方の総括を踏まえた協議の結果及び今後の取組の方向性（単年度及び指定期間中の目標を踏まえて記載）		
斎場と墓園の適正運営を継続して実施するため、双方が提案する課題等の事項について認識を共有し、施設の共同管理者としての関係強化を図りながら課題解決に向けた取組を行っていく。		